

第2回「もりメイトキッズ」 ～大竹市松ヶ原キッズフィールド～

2022・8・21開催

参加：子ども11名 保護者10名 スタッフ15名 学生1名

～今回のプログラム：木を切ろう！パート1、夏の思い出 木工クラフト《ブックエンド》～

キッズ第2回目は、雨や流行り病で不安の絶えない中での開催でしたが、終日曇りで、活動にはもってこいの一日となりました。

午前中は、人工林のあるCフィールドで、手ノコを使って木を倒し、玉切りをしました。間伐がなぜ必要なのか、また、安全に木を倒すための方法を分かりやすく図で説明を受けた後、作業を開始しました。倒す木は径約10cmの杉の木。学年ごとに2グループに分かれ、順番に交代で受け口を作りました。斜めに切る作業は子どもにとって大変難しく、低学年の子供たちは親

と一緒に、小学3、4年生の子ども達は自力で作業を行っていました。どちらのグループも受け口、追い口をきれいに作り終え、無事に倒すことができました(拍手)。次は、倒した木の玉切りに挑戦。径約10cmの木は、前日までの雨で湿気もあり、切るのが難かったようですが、どの子もあきらめないうで全員ミッションを達成！記念に持ち帰りました。

午後からは間伐材を利用した、木工クラフトを行いました。クラフト部会の佐藤部会長にブックエンドをリクエスト。クラフト部会の協力得て、材

の調達から設計に至るまで準備していただきました(感謝)。まずは、径10cm、長さ約8cmのヒノキの材をナタでカット。カットした材の表面がざらつき、接着するのに苦労しましたが、子供たちがツバキの実やクラフト用の様々な木工部材を使って、てんとう虫やクワガタ、トンボ、ウサギや恐竜など想像を活かし思い思いに飾り付け、夏の思い出を形にしておりました。子供たちの想像力が作品の形となるのは、大変な間伐作業や、クラフト材を製作するスタッフにとっても実に喜ばしい限りです。



倒したスギの玉切りに挑戦！お父さん助っ人。



木槌を使って木をカットしたよ。



ステキなブックエンドができました。

毎回のもりメイトキッズ、様々なスタッフによって支えられています。



第一回目から「ふりかえり」を担当のニューフェイス 坂田さん。「子ども達の真剣な表情や笑顔を見るのが楽しみなんです。みんなの前に立つのは、苦手なんですけど、何でも出来た方がいいし、自分にとっても勉強になります。アドバイスをしてあげられるようになりたいです。子どもっていいな。」ふりかえり担当。坂田美和さん

今回のメインメニューはチキンカレー。ターメック入りバターライスがさらに食欲をそそりました。もりメイト倶楽部の専属シェフ北田正子さん談「毎回心がけている事は、季節の食材を使う事。予算の範囲内でいかに子ども達の喜びそうな物を作るか、時間調整にも毎回挑戦しています。居酒屋メニューは得意なんですけどね。(笑)」

調理担当スタッフ。左から木原さん、北田正子・北田正仁さん、杉田さん



見事なスプーンを作って下さった川原さん。『このスプーンはね、子ども達が、前にそこで倒した木で作ったんだよ』お見事！！



↑食事の前にスプーンの話をして下さる川原さん。既製品と見まがうほどの出来栄えにみんなびっくり！使用したスプーンはプレゼント。